

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もよろしく御願いたします。

創刊後10周年を迎えた本誌で今回特集として採り上げたリハビリテーション行政の問題の重要性は今更強調するまでもない。結局リハビリテーションは医学的な面と社会的な面が車の両輪のごとくうまくバランスをとりながら進歩へと向うものであって、どちらが不足していても成果は得られない。

医療従事者とはもすれば自分の専門領域に閉じこもり、いわゆる専門馬鹿となって他のことをあまり気につけない。そして何か一つの事を実用に移す段になって、法規や約束事の無知に気が大いに嘆く。そのような意味で本特集は大変啓蒙的であり利するところ大である。これは若松栄一氏の序文にもよく表わされている。初山泰弘氏は本邦の代表的公的機関の医師としてリハビリテーション医療施設の分類と分析、そして施設の機構について紹介を行った。大村潤四郎氏は社会保障について述べたが、小児中心から成人そして老人へと変遷しつつある本邦あるいは世界的なリハビリテーションの傾向について述べ、ことにリハビリテーションの経済的社会的効用について触れた。

これは障害者にとっても我々医療従事者にとっても強調してもらいたい点の一つで、リハビリテーションに対する社会の投資は経済

的に充分見返りのあるものだということである。行政官の立場から河野康徳氏がリハビリテーション行政推進上の課題についてまとめられたが、現行のいろいろな機関や施設で各種のリハビリが行われているといえ、多分にばらばらに行われている感が否定出来ない。将来は、より包括的総合的に機能し得るようにとの狙いから障害者福祉都市、総合福祉センター、総合リハセンター、地域の協議会の構想を述べられ、すでに一部試みられていると紹介された。つづいて江口壽榮夫氏は長年にわたる自己の現場での経験から育成医療について問題点を提起され、他の医療費公費負担制度との兼ね合で、又医療の進歩と社会的ニーズの変化で、制度自体が変革を迫られていると述べた。成人のリハに対する代表的な考えを、脊損センターの実績から赤津隆氏は特に重度障害者に対する援護の措置がきわめて悲観的であることを強調された。年金制度上にも各種補償制度の間に格差があることも問題である。なお豊原氏のCTの論文は昨今の本検査法の有用性を示すもので、機能予後の推定の可能性も出て来たわけである。

時を得て丁度講座でもCTに関する一連の知識を専門家に依頼することになったので御期待いただきたい。一頁講座はスプリントが始まり、これまた実地診療上役立つ筈である。(大井 淑雄)

次号予告(第11巻 第2号)

特集 治療体操の見直し

治療体操の問題点……………	東京厚生年金病院	森 健 躬
腰痛体操……………	日医大第一病院	石 田 肇
リウマチ体操：頸椎変化を中心に……………	七沢病院	岡 崎 健
喘息体操：気管支喘息の治療法の		
1つとしての呼吸練習運動……………	同愛記念病院	馬 場 実
妊産婦の体操……………	東京厚生年金病院	松 山 栄 吉
巻頭言 わが国に相応しいリハ医学教育を……………	大分県厚生年金病院	桑 原 寛
研究報告 末梢神経損傷患者の職業復帰について……………	金沢大・整形外科	染谷富士子・他
電気刺激による麻痺筋の機能代償：片麻痺内反足への応用を中心に……………	大阪労災病院	川 村 次 郎・他
調査 岡山県の肢体不自由者更生施設、重度身体障害者更生援護施設修了者の追跡調査……………	岡大・整形外科	武 智 秀 夫・他
講座 CT(2) 読影法……………	東大放射線	竹 中 榮 一
車椅子(2) 電動車椅子と車椅子の新しい試み……………	兵庫リハセンター	南 久 雄
一頁講座 スプリント(2) 材料加工法 ①ギプス等……………	川崎医大	土 肥 信 之

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加倉井 周一
賀 集 竹 子
河 邨 文一郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長谷川 恒雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)